

所内トピックス

平成17年度評議会の開催

企画調整部 研究企画科

平成17年度の独立行政法人農業環境技術研究所評議会が、4月27日に農環研において開催された。評議会メンバーは以下の通りである。

【評議員】

永田 徹 前茨城大学農学部教授
中村雅美 日本経済新聞社編集委員（書面参加）
木村真人 名古屋大学大学院生命農学研究科教授
小川吉雄 茨城県農業総合センター園芸研究所長
藤田和芳 大地を守る会会長
大塚柳太郎 （独）国立環境研究所理事長
三輪睿太郎 （独）農業・生物系特定産業技術研究機構理事長
大熊幹章 （独）森林総合研究所理事長
秋山敏男 （独）水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所長
塚本和男 大臣官房環境政策課長（書面参加）

【オブザーバー】

大川安信 農林水産技術会議事務局研究開発課長
農環研理事長挨拶の後、企画調整部長から昨年の評議会における指摘事項とそれに対する対応および平成16年度の所の業務実績について報告があ

った。次いで、平成16年度の主要な研究成果が研究部長・センター長から紹介され、評議員からの業務実績に関わる総合評価のあと、講評をいただいた。そのうち、主な意見は以下の通りであった。

新たな中期計画の策定においては、食料の自給率や食の安全・安心に関わる問題などを10～20年の長期的な視点から考えてほしい。

研究需要を捉えることに全力で取り組む必要がある。

都道府県からの依頼研究員の受け入れなど、人の交流や現場を考えて研究を進めてほしい。



インベントリー展示館のオープン

農業環境インベントリーセンターインベントリー研究官 上田義治

「インベントリー」は、本来「財産や在庫の目録」の意味で、当研究所では「農業環境資源の標本と情報のバンク」の意味で使っている。来訪者に農業環境インベントリー研究の目的や内容を知っていただく場として、「土壌保全・モノリス実験棟」の一部を改装し、「昆虫・微生物展示室」を新設した「インベントリー展示館」が4月20日にオープンした（表紙に関連写真）。

玄関ホールには、わが国における山地から海岸に至る代表的な土壌モノリス（土壌断面）標本の展示、モノリス標本の作成方法の解説などがある。

ホールから左側には、50年前からの土壌試料が

保管された土壌試料保管室、現地の農作業風景をまじえた世界の土壌モノリス展示室がある。

ホールから右側には、新設の昆虫・微生物展示室がある。展示テーマは「農業環境における多様な昆虫と微生物」で、農業環境に棲む昆虫・微生物に関する研究成果と多様な標本が閲覧できる。さらに、大型ディスプレイにより当所が公開している農業環境に関する様々なデータベースを、多くの来訪者が同時に閲覧することができる。見学を希望される方は、企画調整部情報資料課（電話029-838-8191）にご連絡下さい。